

第5回 大宮地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日 時 令和元年6月8日(土) 10時00分～10時45分

2 会 場 大宮台自治会館 2階和室

3 出席者

- (1) 委 員 4人 *委任：石井副会長、鹿倉委員、鹿児島委員、宮崎委員、
加藤委員、本澤委員
- (2) 事務局 5人 *教育委員会 企画課 山崎課長、古屋課長補佐、望月主任管理主事
星野管理主事、吉田主任主事
- (3) 傍聴者 6人

4 報告・議題

- (1) 【報告1】事務局・各団体より(前回協議会以降の動き)
- (2) 【議題1】統合に関する要望書について
- (3) 【議題2】統合準備会について

5 会議資料

- (1) 資料1：「大宮小学校と大宮台小学校との統合に関する要望書(案)」
- (2) 資料2：「大宮小学校と大宮台小学校の統合に向けた統合準備会の開催について」

6 議事の概要

(1) 【報告1】各団体より(前回協議会以降の動き)

学校関係からは、大宮中より報告があった。地域関係からは、いずみ台ローズタウン自治会より報告があった。事務局からは、前回の協議会後に行った近隣の幼稚園・保育所での説明会について報告した。

(2) 【議題1】統合に関する要望書について

会議を欠席された委員の委任状には要望書に関する意見はなく、議長に一任するという委任がされていることを確認した。通学路の安全確保については、統合準備会でも具体的な方策について協議することが確認された。今後の大宮地区のあり方については、「小中一貫教育校化等を含め」という文言を削除するかどうか議論され、原案どおりとなった。後日、会長と副会長が教育長へ提出することが確認された。

(3) 【議題2】統合準備会について

5回程度の開催で協議が終わらない場合は、回数を増やしたり分科会を行ったりするなどして、慎重に協議を進めることを確認した。

(4) 【議題3】次回開催日時・場所

第5回をもって地元代表協議会を終了することが承認されたため、議題3はなくなった。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶(廣瀬会長)

今日で5回目の協議会になる。意外に早かったとも、長くかかったとも言えるが、とにかく一

つの結論にこぎつけたことは良かったと思う。本日の委員の出席者が2人しかいないということは、これまでの結論について皆さん満足していただいております、今後協力していこうというご意向であるというように解釈している。本日の議題は、統合に関する要望書の検討や、統合に向けた準備についてであり、順調にいけばこれで協議会を最後にしたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(2) 協 議

報告① 各団体からの報告（前回協議会以降の動き）について

〈廣瀬議長〉 小学校の委員が本日欠席なので、伊藤委員から報告をお願いします。

〈伊藤委員〉 中学校では以前アンケートを取ると話していたが、アンケートを取る前に適正配置の案が決定したので、結局アンケートは実施していない。運営委員会を通して意見を吸い上げたところ、今まで私が発言してきたようなこと、統合場所が大宮小でよかったという意見が多かったように思う。

大宮台小の保護者に確認したところ、統合しても、大宮台小の児童全員が大宮小へ行くとは限らないという話を聞いた。特にローズタウン、多部田町はもともと白井小学区だったので、白井小へ転校しようと考えている家庭もあるようだと聞いており、統合時の児童数は予想より減るのではないか。

〈廣瀬会長〉 次に、松坂委員から報告をお願いします。

〈松坂委員〉 私は過日、住民の方々からの意見を申し上げたとおりであり、全体的な意見の収集の中で統合の方向性が定まれば、その意見である程度やむを得ないのではないかと考えている。ただ、このあとの協議の中でもあると思うが、一つだけ申し上げておきたい。統合後の登校手段について何人かの意見を聞いたところ、大宮小には自家用車を使って家族同士、乗合で行こうというような人もいようだし、バスを使って都小や白井小の方へ行こうという人もいて、それぞれの家庭で考えているようである。ただ、私も通学パトロールの方々からご意見を集めてきたけれども、通学距離が遠くなる人への対応は十分な対策が必要だと考えている。要望書案の中には、「通学距離が遠くなる児童への対応について、具体的な方策を協議すること」とあるが、資料2の統合準備委員会の主な検討事項の中には「通学路の安全対策」とだけしか入っていないので、同様の文言を入れてほしいというのが要望である。バスを含めた通学路の問題が様々あり、どの程度実現するかはわからないが、地元としてはかなりの要望が入っている。統合場所が大宮小になったことは、通学が不便になる家庭にとっては重要な問題であり、具体的な対策がなければ他の小学校に行かざるを得ない状況でもある。

〈廣瀬会長〉 次に事務局の方から報告をお願いします。

〈事務局〉 前回の協議会の後に、大宮地区の幼稚園、保育所で説明会を行ったので報告する。5月21日（火）に多部田保育所で説明会を行った。地元代表協議会での協議の流れを説明した後、質疑応答の時間を持ったが、その中でいただいた質問・意見としては、

- ・通学路が遠くなり、低学年の子どもにとっては負担が大きく、通学のサポートが必要である。

- ・統合の前年度に大宮台小学校へ入学する児童は、統合前に大宮小に入学できるのか。

- ・千城小も小規模だが、統合するのか。

といったものがあつた。

次に、5月24日（金）に大宮台保育所で説明会を行った。その中でいただいた質

問・意見としては、

- ・幼稚園や保育所での説明会を早めに開催してほしい。
- ・小中一貫教育のメリットとデメリットは何か。
- ・子どもルームの収容人数は、大宮台小の児童も含まれるのか。

といったものがあった。

次に、5月28日（火）に大宮幼稚園で説明会を行った。その中でいただいた質問・意見としては、

- ・校舎の修繕は、どのように行われるのか。
- ・統合場所が大宮小学校になった経緯は何か。
- ・大宮中学校はどうなるのか。

といったものがあった。なお、猛暑のためにプログラムの一部が延期になった大宮小学校の運動会がちょうどこの日に開催されたため、同日の大宮幼稚園の説明会に参加できなかった保護者向けの説明会を再度行うことになっている。

議題① 統合に関する要望書について

〈廣瀬会長〉 まず、議題1「統合に関する要望書について」、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 【 資料1に沿って説明 】

要望書の内容については、事前に会長、副会長と協議をさせていただき、このような形でまとめている。開催通知発送時に、委員の皆様へも事前にお渡ししている。本協議会の廣瀬会長、石井副会長、前田副会長の名で教育長に提出する形で整えている。空欄となっている日にちについては、会長と副会長が教育委員会にお越しいただき、教育長に提出する日にちを入れさせていただく。

なお、本日欠席している石井副会長、鹿倉委員、鹿児島委員、宮崎委員、加藤委員、本澤委員には事前に委任状をいただいております、この要望書に対して特にご意見はなく、議長に一任するという事で承っている。

〈廣瀬会長〉 ご質問、ご要望等、何かあるか。

〈松坂委員〉 ほぼまとまっているからいいのではないか。

〈伊藤委員〉 統合時期は決定という解釈でよいか。

〈事務局〉 その通りである。正式には教育委員会会議にて決定させていただく。

〈伊藤委員〉 もし、準備会でいろいろな問題が出て、それを解決するために時間が必要になった場合はどうするのか。今回の協議会でも、地域や保護者からは統合が早急だとか、もっと協議を重ねて欲しいという要望もあったので、統合準備会においてももっと協議を重ねて欲しいという意見が出てくるのが考えられる。統合時期を決めてしまっても対応できるのか。統合準備会で話し合いを進めて行く中で、統合時期が多少後にずれたりすることは可能なのか、それとも必ず決まった時期に統合しなければならないのか、そのあたりを教えてほしい。

〈事務局〉 統合については市議会にもかけて予算を計上する都合もあるので、一度決定したものについては、途中で変更することは難しい。ただ、伊藤委員がおっしゃったように十分な協議の時間が必要になることも考えられるので、資料2でも説明させていただくが、5回程度の開催を予定している統合準備会の回数をさらに増やして、十分にPTAの方々と協議させていただきたいと考えている。

〈伊藤委員〉 期日はこれで決まりということでよいか。

〈事務局〉 その通りである。

- 〈廣瀬会長〉 よほどのことがない限り、これで決定ということで了解した。
- 〈伊藤委員〉 松坂委員がおっしゃったように、通学路等の問題も含んでいるので、その辺の折り合いがうまくいかなかった場合はもう少し検討してほしいということも出てくると思う。やはりそのあたりの問題に協議の時間を割かれると思う。子どもたちが安全に学校へ通うためには、通学路の安全確保というのが一番重要であるので、その点について突っ込んだ議論をしていかなければならない。昨今の事件も多い中、この問題は十分な検討をしていかないといけないと思っているので、統合の時期がずらせるのか確認させていただいた。
- 〈廣瀬会長〉 通学路の安全対策は非常に重要である。統合準備会をスタートするに当たっては、様々な課題も多いとは思いますが頑張ってもらいたい。
- 〈事務局〉 了解した。
- 〈廣瀬会長〉 協議会前に宮崎委員から電話があり、一つ指摘があった。「3 今後の大宮地区の小中学校のあり方」について、「大宮中学校を存続」まではよいのだが、「全校3学級になる場合に小中一貫教育校化等を含め、改めて検討すること」の中の「小中一貫教育校化を含め」の文言はいかがかというものであった。その点については、協議会でも議論がまだ足りないのではないかという意見をいただいたが、いかがか。
- 〈松坂委員〉 この文言でよいのではないか。今回の協議会ではとりあえず小学校の統合について議論を進めたのであり、将来の方向性として大宮中学校をこの地区に残すと明記しているわけだから、中学校の学級数が少なくなったときにどうするんだということを検討するというので考えれば、この協議会のまとめとしてはこれでよいと思う。
- 〈廣瀬会長〉 修正、削除しなくてよいということか。
- 〈松坂委員〉 この協議会としては、小学校を1校に統合することとし、中学校はこの地区に存続させることは決めたが、それ以降はどうなるかわからない。中学校が単学級などになった場合は、小中一貫教育校化について検討している地区は多く、将来的に考えていかなければならない問題である。これはもう行政の問題であり、地区がどうこうという話ではない。
- 〈廣瀬会長〉 宮崎委員がおっしゃっているのは、小中一貫教育校化だけを強調するのはおかしいのではないかという話である。
- 〈松坂委員〉 この文言は強調しているわけではない。宮崎委員は中高一貫教育を主張していたが、中高一貫教育という方が難しいと思う。小中一貫教育はやり易いと思う。この地区で言うと公立の中学校と私立の高校がどうして中高一貫教育校になるのか。
- 〈伊藤委員〉 宮崎委員がおっしゃっていたのは、私学同士の中高一貫教育校のことである。私学同士なら可能だが公立だと難しいと発言されていた。
- 〈廣瀬会長〉 この文言を残すべきか、どうするか。
- 〈伊藤委員〉 小中一貫教育校化という言葉の後に「等」がついているので、残しても構わないと思う。この小中一貫教育についても、まだ全てが明らかになっているわけではない。何の情報もないまま小中一貫にするというのは無理である。義務教育を9年間とみて、小学校6年生が卒業するときに、卒業式を無くして修了式をもって進級にするなどの議論もなされていないし、教育委員会の方からも説明がなかったので、私は反対をした。教育委員会の方針もまだ出ていない。現在モデル校またはその準備が進められているのは川戸地区、更科地区のはずである。これから問題も出てくるだろう。中等部、高等部がある学校の教職員からマイナスの話も聞いている。教職員のあり方や行事の持ち方など細

かい点はまだ不明確なので私は反対をした。今後、いろいろな課題がモデル校で洗い出されてきて、小中一貫校の成果や課題がはじめて出てくるはずである。まだ試作段階的な状況で小中一貫校化を進める中で、地域がどうこういう段階ではないと思っている。

〈廣瀬会長〉 要望書を提出したら我々は解散することになり、この要望書だけが残ることになる。その場合に、この文言を残すことが、小中一貫教育校化を我々がサポートすることに近いような結論を出したのではないかと疑いをかけられる恐れがあると宮崎委員は心配している。言われてみれば確かにそうである。これをサポートするとは決めていない。議長としては少し気になっているところではある。この文言をこのまま残すか、この部分だけ削除して改めて作成するか。

〈伊藤委員〉 文言的には「・・・等を含め」ということなので、これを否定することも可能だ思う。

〈前田副会長〉 5年か6年先になるかもしれないが、改めて検討することになると思う。それまでには、伊藤委員の発言にもあったように、市の方の環境整備もだいぶ整ってくると思う。そのあたりを活かしながら協議を進めていくことになるだろう。よって、この文言は残すということではいかがか。

〈松坂委員〉 義務教育9年間の編成については、文部科学省との問題もあるし、千葉市の教育委員会の考え方もあるだろうが、その点については公に出ているのか。その辺の整理を一般の人にも周知して、これから問題を提起するのならよい。

〈伊藤委員〉 宮崎委員は、将来的にまだ明確になっていないような文言をここに入れてよいのかということだろう。

〈松坂委員〉 小学校6年間で修了して、残りの3年間で終わった時に卒業するというような、9年間をトータルして整理するという点が理解しづらい。文科科学省や千葉市はどのように整理しているのか。

〈事務局〉 文部科学省では小中一貫教育校を推進している。ただ、あくまでも9年間が義務教育なので、小中一貫教育校と言っても小学校の6年間で終わればそこで卒業式を行い、3年後にまた中学校の卒業式を行うというのが一般的である。ただ、学年段階の区切りをさらに変えた小中一貫教育校も全国的に増えている。修了式的な区切りを6年、3年と分ける小中一貫教育校もあれば、4年、5年で分ける場合など様々である。千葉市では現在小中一貫教育校がない。今年度モデル校がスタートしたので、小中一貫教育に関する成果や課題が今後整理されてきて、それに基づいて千葉市でも小中一貫教育校についての方針をまとめていく段階である。

〈廣瀬会長〉 大宮中学校が全校3学級になった場合にどうするかという点については、一つの例として小中一貫教育校化があるけれども、それも含めて改めて検討するという理解でよろしいか。

〈事務局〉 その通りである。

〈伊藤委員〉 中学校は中学校で残すという文言も残っているので、今後の地元協議会でいくらかでも協議できるということでよいと思う。

〈廣瀬会長〉 「大宮中学校を存続し」という表現でよいか。前回では「大宮中学校の存続を前提として」という議論だったと思う。要するに、中学校はきちんと残すという話であった。

〈伊藤委員〉 言い切りの表現になっているので、中学校は間違いなく残ると理解している。

〈松坂委員〉 具体的な話では、この地区には大宮中学校を一方として残そうというトータル的な話だったと思う。だから「存続し」でよいのではないか。

〈廣瀬会長〉 「存続し」でよいか。

〈伊藤委員〉 本澤委員がおっしゃったように、中学校がなくなるかもしれないというような話が出たので、それは困るということで、残すという方向で教育委員会をお願いしてこの文言を入れていただいた。

〈廣瀬会長〉 了解した。他に何かあるか。なければ、この要望書を教育委員会に提出する。

〈事務局〉 それでは、この要望書案は合意され、提出する日付を入れて正式に準備させていただくということでよろしいか。

〈委員一同〉 【 異議なし 】

〈事務局〉 提出日については、後日、会長、副会長と相談し、教育委員会にお越しただいて教育長へ提出するという形を取らせていただく。

議題② 統合準備会について

〈廣瀬会長〉 議題2「統合準備会について」、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 【 資料2に沿って説明 】

先程伊藤委員より発言があったように、開校の年度が決まっている状況の中、5回程度の開催で協議が足りない場合は、統合準備会の回数を増やしたり、PTA同士の分科会を別に開催したりするなど、協議の場の設定について様々なケースを考えながら、慎重に協議を進めていきたい。

〈前田副会長〉 他の地区では、統合準備会にかかる時間はどれくらいか。

〈事務局〉 要望書提出から開校までの2年程度の間には統合準備会を開催している場合が多い。例えば、二つの学校のPTAが統合する場合、両校の会則やPTA会費、役員の決め方等が異なっているため、その話し合いを行うだけでも時間がかかり、統合準備会とは別にPTA同士での協議の場を別に設定したケースもある。

〈廣瀬会長〉 千城台地区では少なくとも5回くらいはやっていると思うが、まだ結論は出ていないのか。5回で結論は出るのか。

〈事務局〉 千城台北小と千城台西小は、来年度に統合になるが、予定通りの開催の中で体操服や教材が決まってきており、PTAに係る事項についても、統合準備会以外にPTA同士で何度も集まって協議をしていただいている。統合準備会では進捗状況について報告をしていただくような形で、スケジュールどおりに進んでいる。

〈伊藤委員〉 一番時間がかかるのが校名等の検討だと思う。校章、校歌、教育目標などである。千城台北小と千城台西小はどちらも学校規模が同じくらいなので、お互いに歩み寄って話ができると思うが、大宮地区の場合はあまりにも学校規模に差があるので、その辺の議論が難しいのかなという感じがしている。以前の協議会で、大宮台小を廃校にして、校名、校歌、校章等すべて大宮小のままにできないか、その文言を要望書に入れてもらえないかと発言したが、議長の方からそれは統合準備会で協議することだと言われた。

〈廣瀬会長〉 大宮台小を吸収するという意味ではないので、やはり対等の立場での統合だと思う。ただ、片方の人数が多い少ないという現実が実際にどう影響してくるかということをしつかりと検討して決めていただきたい。

委員の選定も含めて、主な検討事項も千城台地区などの他地区と同様に進めていくことでよいか。

〈事務局〉 資料にある具体的な内容については、千城台地区を参考に作成しているが、臨機応変に変更していく。

〈前田副会長〉 千城台南小と千城台旭小も同様だと思うが、開校年度はいつか。

〈事務局〉 令和3年度の開校となる。千城台北小と千城台西小の統合よりも1年遅いため、千城

台南小と千城台旭小の統合準備会は、北小と西小の開校後も続くことになる。

〈廣瀬会長〉 第1回の統合準備会の開催は9月頃となるが、統合準備会の開催に向けて、関係者の皆様には準備をお願いしたい。

これで本日予定の議事をすべて終了する。また、今回をもって地元代表協議会での協議を終了する。設立から本日まで、委員の皆様のご協力に感謝申し上げます。事務局にも感謝したい。ここで、議長の任を解かせていただき、進行を事務局にお返しする。

(3) 連絡

議事の要旨について、今回も、事務局の方で作成した議事要旨の案を委員の方々に確認していただく。その後、修正したものを教育委員会企画課HPで公開する。

〈事務局〉 地元代表協議会は本日の開催が最後となるので、協議会の運営にご尽力をいただいた会長、副会長の皆様にご挨拶をいただきたい。

〈前田副会長〉 大変長い間ご苦勞さまでした。昨年の暮れぐらいか、大宮台小学校に統合するという噂が地域で広まって、噂が噂を呼んでなかなか收拾ができず、委員の皆様も苦勞したことと思う。特にPTA会長にとっては、まだ何も決まっていないのにどうしてそのような話になっているのかと苦勞されたと思うが、いい方向に収まってよかったと思う。また、平山町の加藤委員においては、この大宮中学校区という意味では違った地域ではあるが、大宮中に生徒を送り出している地域であることから、あえて5つの集落をまとめていただくために委員になっていただいた。いろいろとご意見をいただき感謝申し上げたい。最後になるが、議長と会長が一本化できたことがよかったと思う。別々にやるとどうしても歯車が合わないところが出てきてしまうが、非常にスムーズに協議を進行できたのではないかと考えている。様々なご協力に感謝申し上げます。

〈廣瀬会長〉 「ありがとうございました」のひと言しかない。感謝申し上げます。

〈企画課長〉 本協議会を立ち上げる時から今日まで、委員の皆様には大変ご尽力いただき感謝申し上げます。私どもは、大宮地区小学校の子どもたちの笑顔を実現すべく頑張ってきたつもりではいるが、様々なところで皆様のお力添えをいただいて本日を迎えることができた。ここから先は統合準備会という形で、実務の部分になる。先程説明させていただいたように、企画課だけでなく教育委員会が総力上げてということになるので、引き続き細かなところを含めてお力添えをいただきたい。長い間、ありがとうございました。